

## 令和3年度第3回境町学校のあり方検討委員会（第3回議事録）

日 時：令和3年11月16日（火）午後3時から5時00分

場 所：境町役場4階会議室

出席者：検討委員16名，学校長3名，事務局3名

### 1 開会

### 2 教育次長あいさつ

委員の皆様には、常日頃より本町の教育行政にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。また、本日はご多用の中、ご出席いただきまして重ねてお礼申し上げます。さて、当委員会も第3回ということで、コロナ禍ではありましたが、一般町民、保護者、教職員の皆様に加え、小中学校の児童生徒のアンケートも出揃ったところでもあります。このアンケート結果も踏まえ、さらには、小規模校の現況等につきまして、実際に学校経営に携わっております、3名の校長先生方にもお越しいただきまして、学校運営上の利点や課題について、実態をお話いただきながら、さらに当委員会の課題整理を進めてまいりたいと考えております。本日は、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

### 3 議 事

**事務局**：それでは、議事に入らせていただきます。本日は、16人のご出席をいただいておりますので、会議が成立することをご報告いたします。

それでは、委員長であります加藤委員長に議長をお願いいたします。

**委員長**：皆さん、こんにちは。本日は、小規模校のヒアリング、アンケート調査結果の報告ということで、大きく2つの議題となっております。ご意見等を後程お伺いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。それでは、次第にあります議事（1）「課題の整理（小規模校に対するヒアリング）について」事務局より説明をお願いいたします。

**事務局**：議事（1）について、小規模校の学校長3名より、学校概要及び利点や課題について説明をお願いします。

**学校長**：自然に囲まれて、素直な子どもたち、それから協力的な保護者に恵まれて、毎日学校に来るのが楽しいです。また、要覧でも説明させていただきますが、歴史伝統のある本校の学校長として、学校運営をするにあたって、非常に責任を感じ、子どもたちが健全にすくすくと伸びのびと成長して、中学校の方へ送り出したいなと思っております。それでは、本校の現在の様子の説明をします。学校要覧を見ながら話を聞いてください。はじめに、学校の沿革に入りますが、明治14

年にスタートして、昭和22年に現在の学校名に改称されました。そこから数えると今年で74年目を迎えます。私も本校に赴任した時に、地域の方から昔の学校はもう少し北寄りにあって、そこから今の場所へ移動してきたと聞いております。校長室にも昔の写真があるのですが、この辺から移動してきたという位置関係は理解できました。校長室には、学校の沿革と同じようなものがありますが、そこには児童数も載っています。一番多い時には、800人を超える児童数があったという記録がされています。職員一覧・学級編成をご覧ください。現在本校は、2年生だけが2クラスであり、他の学年においては、1クラスとなっております。特別支援学級が2クラスあり、児童数は全部で178名です。職員は、県採用の職員が15名、町採用が9名の併せて24名の職員で児童の指導にあたっています。続いて本校の教育活動について説明します。令和3年度グランドデザイン（教育活動を表したもの）をご覧ください。本校の児童の実態を言いますと、非常に素直で優しい子が多いです。学校評価のアンケートなどで保護者や教員からも出ているのですが、やや自己表現力や積極性、心の面のたくましさ欠缺かなという所が課題としてあがりました。そこで組織目標がありますが、本年度の学校組織目標を、自ら考え、正しく判断し、行動できる児童の育成としました。知・徳・体と3つの項目に分け、子どもたちの育成に励んでいるところです。そこで細かな具体的な施策の中で太字になっている部分が本年度本校の重点項目にしています。学力の面では、自分の思いや考えを論理的に伝える力の育成。心の面では、自律的精神の養成、たくましさという部分に関しては、自己管理能力の育成と健康教育の充実、それから信頼される開かれた学校づくりを目指し、学校・家庭・地域との信頼関係の構築と連携・協力体制づくりというような4つの重点項目を中心に学校教育活動を展開しています。学びを鍛えるという部分に関しては、本年度よりタブレットを全児童に配布されましたので、ICT機器を使った教育活動に力を入れています。コロナウイルスの影響で9月の1か月間自宅学習になってしまいました。学校と児童をオンラインでの学習が実現できました。当初は、接続に問題が出てしまうのではないかと、自宅にいる分リラックスしすぎて学習効果が上がらないのではないかと不安もありましたが、我々が考えていた以上に子どもたちは、自宅でも集中して取り組んでいました。我々が期待していた以上の効果が上がったかなと思っております。それと、授業の中でも電子黒板が各学校に設置されています。電子黒板を使って、子どもたちのタブレットから考えを電子黒板にとぼしたり、電子黒板に映った画像で考えの共有、意見の交換などをして学びを高めています。次に、心の面の説明をさせていただきます。自律的精神の養成という所に関しては、境町は、数年前からリーダーシップ教育に力を入れています。小学校ですので、自分が活躍できる場面、もしくは、頑張った場面で本校においては、〇〇リーダーという風に、リーダー

カードを渡しています。自分の得意な分野で活躍し、褒められたり、認められたりすることによって、自信をつけさせてやりたいということでリーダーシップ教育をしています。豊かな心に関しては、残念ながらここ2年間、コロナの影響で地域の方との触れ合いができていません。本校では、文化的行事を計画し、保護者や地域の方に参加していただいて、一緒に体験するのが児童にとって非常に効果があるのですが、今年度はコロナ禍の為、期待できません。たくましさの面では、自分の体に関心を持たせるような教育をしています。自分の健康の保持増進を発達段階に応じて、健康をコントロールできるような力を身に付けてほしいと思っています。最後に信頼される開かれた学校づくりということですが、本年度から境町は2学期制となりました。10月の2週目で前期が終わったわけですが、児童・保護者・職員の学校評価アンケートをとっています。このアンケート結果を基に、学校評議員会を開いて、ご意見をいただく予定であります。学校教育活動に対して、さらに本校が良くなっていくために忌憚のない意見をいただきながら、教育活動が充実するように努めていきたいと思っております。次に、メリットデメリットについて、本校は178名で2年生は2クラスありますが、単学級ではあるものの、1学級の人数は20名を超えます。一番多い3年生で32名ですが、1学級の人数としては授業もやりやすく非常に良いという声も聞こえてきます。メリットについて資料にチェックしていますが、特に教師側からすると、児童生徒ひとりひとりの特性をつかみ、特性に応じた指導がしやすいです。それから、職員の連携も少ない人数なので、月1回の職員会議も短い時間の会議をもったり、会議をもたなくても情報交換がしやすいというメリットがあります。デメリットについては、一番心配しているのが、人間関係の固定化、それから良い面でもあり悪い面でもあるのですが、あの子はこういうところが凄いからどうせ私はどうせ僕はと、一歩引いてしまうような場面も授業や行事の中で見受けられることもあります。そういったところを打破していけるようにしていかななくてはいけないと思っています。それと、今のところ本校は、いじめはありません。もしいじめが起こった時には、6年間クラス替えができずに同じ空間の中で過ごすことはよくないと思っております。また、職員数が少ないので、教師としての資質向上、教師から刺激を受けて教師が育っていくような校内での刺激が少ないのは事実です。小さい学校でも素晴らしい先生はいるのですが、複数いればいろいろな先生から学んでいけるという面があります。以上で説明を終わります。

**学校長：**学校要覧の教職員一覧について、また、1枚別紙を用意しましたので、説明させていただきます。まず、学校の児童数ですが、1年生から6年生まで全て単学級であり、全児童数は98名の小規模校でございます。その中に、知的・ハッピー学級・自閉性情緒・スマイル学級があり、学級数は8学級です。教職員数につきましては、県の職員や町の職員を併せて22名となっております。本校の学校教

育目標として、確かな学力を身に付け、自分のよさを生かして、心豊かにたくましく生きる児童の育成としており、スローガンとして、夢をはぐくみ、夢に近づくためにを旨として、児童の育成に取り組んでおります。柱としては、確かな学力、健やかな体、豊かな心としており、職員はもちろん、保護者の皆様、地域の皆様の力を借りて、児童の育成に励んでおります。本年度の重点項目としましては、めあてに向かって主体的・対話的に学び、自らの考えを表現できる児童の育成を算数科の学習を中心に行っております。重点目標につきましては、要覧でも書かれていますが、確かな学力においては、5つの施策に取り組んでいるところです。主体的・対話的に深い学びができるように、そして、一人1台端末がありますので、ICTを活用した学習、また、2名のALTの先生を配置いただいておりますので、児童が朝登校した時からハローと声をかけていただきながら、2名のALTの先生方に囲まれて英語教育にも力を入れております。また、健やかな体についてですが、コロナ禍の状況でありますので、毎日の健康観察を大切にしています。また、学校の近くに大きい道路があり交通量が多いので、交通安全に注意しています。さらには、ICT機器を使用しているので、情報モラル教育の推進もしております。また、体力づくりということで、昼休みの活用、異学年交流をしながら体力づくりに努めております。豊かな心の部分では、毎月いじめのアンケートを実施しています。学級でやるだけではなく、管理職にも目を通し、全員がどんな状況であるか、また、アンケートに何も書かれていない児童に対しても担任の先生が必ず話を聞くようにしております。また、わくわく隊という異学年交流の活動もしております。少人数だからこそ、温かい学年、温かい学級経営の中での人づくり等に努めることができます。次に、メリットデメリットについてですが、A4資料の裏面をご覧ください。メリットということで、学習面に関して、資料の写真は6年生の算数の授業を載せております。15人の少ない人数ではありますが、話し合いをする時は、3人のグループを作って話し合い、それを全体の学級で交流するような形をとっています。真ん中の写真は4年生ですが、一人1台の端末で社会科の学習について自分で調べてまとめたものを周りと共有し、電子黒板に映し出して、さらにみんなで共有をしています。5年生のALTの授業ですが、2人の先生が授業に入っておりますので、子どもたちに直接指導して下さったり、質問に答えていただいたりしており、本校の児童は英語が大好きな子が多いです。このようなことから、児童一人ひとりに目が届きやすく、補充や個別指導など、きめ細やかな指導が行いやすいこと、意見や感想を発表できる機会が多いこと、学校行事等において、児童一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすいというメリットがあげられます。生活面においては、わくわく隊という1年生から6年生までの縦割り班が9つあります。先日、さつまいもをみんなで掘った様子を載せております。高学年が1年生の面倒をよく見てくれてお

ります。また、真ん中の写真は通学班です。先頭の子が6年生でその後ろに4人の1年生が並んで、その後ろに2年生、3年生、4年生、5年生と並んでいる通学班です。4月当初、6年生の子が後ろの1年生の子にここでおはようございますって言うんだよと声をかけ教える姿があり、それから1年生は班長のように大きな声で全員挨拶できるようになりました。とても良い姿だなと思いました。また、右の写真は、1年生から6年生になるときに、毎年1枚ずつその年に得意になったことを葉に書き、しずかの木に貼っている様子です。1年生から6年生になっていく中で、貼ってある文字からも成長が伺えますし、書いてある内容からも今年は、こんな事を頑張っでできるようになったんだなど、確認できるような木でございます。それを、児童会が中心となって各クラスで書いてもらって、紅葉の時期に貼り重ねている活動の写真でございます。以上のことから、児童生徒相互の人間関係が深まりやすい、異学年間の縦の交流が生まれやすい、児童生徒の一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすいというメリットがあります。次に学校運営・財政面ですが、9月のオンライン授業の様子を載せました。左の写真は、先生方がオンライン授業をどのように進めていくかと研修を行っている様子、真ん中と右の写真は、高学年の先生方がどのようにオンライン授業を行っていくか考えている様子であります。全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい、学校が一体となって活動しやすい、施設・設備の利用時間等の調整が行いやすいという点がメリットとなります。次に、その他についてですが、静小地区には、伝統あるお祭り塚崎の獅子舞があります。残念ながら、令和2年、3年と本校で披露していただけておりません。これは、令和元年度の朝の会の時間に合わせて校庭で獅子舞を披露していただいた写真でございます。また、右の写真ですが、バケツ稲の写真でございます。バケツの中での代掻きから脱穀まで地域の方にご指導いただき、こんなにお米を作るのが大変なんだねと子どもたちが実感しながら、学んでいる写真となります。以上のことから、保護者や地域社会との連携が図りやすいということがメリットとなります。デメリットの部分となりますと、学習面では、1学年1学級しかありませんので、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくいです。また生活面ですが、クラス替えがありませんので、児童生徒の人間関係や相互の評価等が固定化しやすいです。そして、今後児童生徒数が減少した場合に当てはまる事項ですが、令和7年度の入学者が9名、令和8年度が10名、令和9年度が9名ということでお聞きしており、男女比は分かりませんが、集団内の男女比に偏りが生じやすくなる可能性があるのではないかと思います。学校運営面・財政面のデメリットに関しましては、一人に複数の校務分掌が集中しやすいことは実際でございます。これから当てはまってくる事項としては、教職員が少ないので教科や経験に偏る可能性があるのではないかと

います。また、子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすいことも考えられます。ただ、本校の場合は、後援会をたちあげていただいております。子どもたちの教育活動において、ご尽力をいただいているところであります。その他のところで、児童の人数が減れば保護者の皆様に負担が大きくなりやすいことも考えられるのではないかと思います。以上で説明を終わります。

**学校長：**学校要覧をご覧ください。学校の沿革ということで、64年目に入ろうとしています。生徒数ですが最大で823名いた時代があったわけですが、現在は206名ということで4分の1になってしまいました。昔から地域の皆様に愛されている学校でございまして、子どもたちも落ち着いていて良い子ばかりです。教職員数ですが、常時いる教員は21名います。その他ALT3名の中で学校運営をしております。学年の人数ですが、1年生だけ1クラス39名いまして、コロナ禍でできるだけ机を離せとなっておりますので、教室の中は身動きがとりにくい状況です。2年生3年生は、32名ほどですので授業がしやすい環境であります。それでは、私からはメリットデメリットを中心に説明したいと思います。メリットですが、学習面・生活面いろいろありますが、一番のメリットは、一人ひとりに目が届きやすいというところがメリットかと思えます。何かあった時に全員が名前と顔を思い浮かべることができるという所がメリットで、特別な事情も全て理解した上で、対応が可能であるという事が最大のメリットかなと思えます。その反面、デメリットですが、学習面において、部活動が非常に問題となっております。昔から部活動数が変わってなく、削減できない現状にあります。例えば生徒が1人でもいたら無くしてしまおうというのはハードルが高く難しい。昔ながらの活動を維持していますので、部活動単体では維持できない部活もあります。例えば、サッカー部は11人必要ですが、6人しかいません。野球部は9人必要ですが、6人。剣道部は男子2人しかいない状況です。大会に出場してもどこかの学校と合同部活動をしており、ようやく大会に出場できる状況であり、今回の新人大会ですが野球部は、合同チームで出場しました。サッカー部は、隣の市の中学校と合同チームとなり、遠いのでなかなか練習が一緒にできないまま大会に出場するという現状で、非常に部活動においては、どうやったら部活動を減らすことできるか、減らした場合に生徒の選択肢が少なくなってしまうので、ジレンマに陥っている状態です。デメリットの続きですが、資料中の中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくいにもチェックを入れさせていただきました。中学校は、教科ごとに定数が決まっております。小規模校はこの定数が少ないです。例えば、本校ですと国語の先生の定数が1人です。1人で全クラスを回すのが非常に難しいのが現状です。現在も、教員のなり手不足もあり、非常勤講師が1枠あるのですが、見つかっていません。人が見つからない現状で定数も少ないというのがデメリットであります。生活面におきましては、一人ひとりに目が届

きやすいというメリットはありますが、人数が少ないので多様な人間関係が生まれにくく、価値観が絞られやすいです。少し違う価値観を持っていると排除されやすいような傾向が少しある気がします。逆に言うと、みんなが同じ価値観で育ってしまうという懸念もあります。学校運営面のデメリットでは、子ども一人にかかる経費は大きくなっているのかなと思います。大きな学校と比べると、同じだけの設備、同じだけの物が必要ですので、一人当たりで換算するとコストは大きくなるのかなと思っております。以上で説明を終わります。

**委員長：**ありがとうございます。ただいま、校長先生方からいただいた説明についてご質問・ご意見等がありますでしょうか。

**委員長：**人数が少ないことを補うために、異学年単位で活動できているような教科等についてお聞かせください。(小学校長2校)

**学校長：**異学年での交流といたしましては、1年生2年生、3年生4年生の合同で遠足を実施しており、2年生が班長、1年生が副班長といった形でグループ活動をしています。授業の中というよりは、行事や生活科の学習で交流をしています。また、5年生6年生では、運動会の代替えとしてスポーツ大会を実施しましたが、人数が少ないので1人1役ではないですが、それぞれ責任のある活動を5年生6年生が中心になって運営・進行しております。

**学校長：**教科というよりは、行事が多いかと思います。生活科の中で、入学して間もなく、2年生が1年生に対して、学校を案内するという学校探検を行いました。さらには、運動会の代替えであるスポーツフェスティバルの中で、4年生5年生6年生が合同で鼓笛を実施しております。

**委員長：**ありがとうございます。TT講師の入り方についてお聞かせください。(学校長全員)

**学校長：**低学年の算数の授業を中心に入らせていただいております。

**学校長：**1年生から6年生の算数の授業を中心に入らせていただいております。

**学校長：**数学の授業に入らせていただき、主に副で入らせていただいております。

**副委員長：**子どもの人数の割には、町のTT講師等を含めると教職員数が多い印象ですが、学級担任の先生や教科担任の先生が一人で授業をする場面とTT講師等がついて複数で授業をする場面のどちらが多いですか。

**学校長：**TT講師等は、少人数指導という配置ではないので、担任単独での授業の方が多いです。

**委員：**学校経営上の諸問題は多いのでしょうか。(学校長全員)

**学校長：**小規模校では、子どもたちの人間関係が固定化して学校に活気がなくなってしまうのではないかという心配はありましたが、同じ小規模校でも1学級に20人以上の児童がいると、学校運営としてはやり易いのかと個人的に感じております。もちろん、複数学級ある学校であれば、子どもたちには刺激があったり、行事を

やれば活発になったり、メリットはたくさんあると思います。1学級の人数が多すぎると子どもたちに目が届きにくくなるのは現実だと思います。職員の構成や資質向上等も踏まえると、複数学級あった方が良いと考えます。

**学校長**：1番多いクラスで19人、少ないクラスで15人となっており、一人一人に目が届きやすくなっていることで、担任はもちろんです、全職員が児童の事を分かっています。大きな学校にも良さがあると思いますが、小規模校なりの良さがあるかと思います。

**学校長**：1学級の人数にもよりますが、30人前後の生徒数であって、1学年3クラスから4クラスあるのが、教員の数も考えると、学校運営がしやすいのかと思います。

**委員**：地域や保護者、卒業生の声など学校で聞いていることはありますか。(学校長全員)

**学校長**：地域の方と正式な話し合いの場を持ったことはないし、下校指導等をしていて、そのような話になったことはないですが、地域の方は母校が無くなってしまうのは寂しいというのは、当然あるかと思います。

**学校長**：地域の方に支えられている学校だと思います。児童の登下校の姿も良く見守っていただいておりますし、地域あつての学校だと思います。

**学校長**：PTAさんと懇談をすることがあるのですが、このまま進みますと、生徒数が減少していく中で、存続していくのは厳しいのかなという実感はあるようです。また、いざ現実になりますと、非常に不安等が募るかと思います。

**委員**：私自身も母校愛が強いものですから、感情的なこともあり、校長先生方も言いづらいこともあったかと思いますが、ありがとうございました。

(校長先生方 退出後、休憩)

**委員長**：それでは議事を再開させていただきます。議事(2)「学校の規模・配置等に関するアンケート調査結果報告」について、事務局より説明お願いいたします。

**事務局**：議事(2)について、事務局より説明

**委員長**：ありがとうございます。ただいま、事務局より説明がありました(2)についてご質問・ご意見等がありますでしょうか。

**委員**：1つ確認をさせていただきたいのですが、参考資料2の中で課題が書かれていますが、あり方検討委員会で検討していない資料を出すのはおかしいのではないのでしょうか。

**委員長**：こちらは、事務局が案として作成しているので、委員の中でこの部分はおかしい、この解釈は違うのではないかな等、ご意見があれば言っていただければと思います。

**委員**：反対とかそういうのではなく、事務局で課題を整理してしまっただけ良いのですか。

**委員長**：原案だと思って下さい。結局、どこかでは整理して、議論しなくてはいけないので、事務局が整理して、この場で議論をしていただきたい。この課題は、決定さ



れている内容ではありませんので、委員の方々でここの解釈は違うのではないかと、ここまで言う必要はないのではないかと等、ご意見を出していただきたいと思えます。

**委員：**委員長のおっしゃる通り、事務局の範囲で決めていく問題と委員さんから意見をお聞かせくださいというのでは、ずれが出てくるのではないのでしょうか。既に事務局で必要があると謳っている。

**委員長：**それは、事務局でそう思われると言っているだけであって、ここの検討委員会でこの案は違ふとか、言ってもらっていいかと思えます。或いは、グラフの解釈のみにして、ここで述べている課題は、対応策のような事も書いてあるので、ここまで踏み込んで書く必要はないのではないかとというような、意見も言ってもらって良いと思えます。私自身は研究をやっている人間ですので、別の意見はありますが、やはり皆様方の意見を出していただくことを重視しておりますので、先ほど委員の皆様から言っていたように、この検討会で何をどこまでというようなこと、極端な事を言うと、統廃合するかしないかまで話し合うのか、統廃合はしないけど、今後のあり方を少し出すのかという幅があるとする、今は凄く幅がある状態だと思います。そうすると意見をいただく際に、ここまで課題を書かないってことは、統廃合をするかしないかということに、このあり方検討会は、メモリを振り切らなくていいのではないのかということもこの検討会で検討していただいていいと思えますし、その意味では、データの量が多いので、全てのデータに対して意見を言うのは難しいかもしれませんが、部分的にご意見をお伺いできればと思っております。私自身もこの検討委員会は、どこまで言うものなのか決まっていないと思えますし、おっしゃる疑問は分かりません。

**委員：**委員長がおっしゃるように、このあり方検討委員会は、どういう方向性で検討しているのかなと、強く感じております。

**委員：**着地点が見えない状況で、ご意見下さいと言われても、どういったことを答えていいのか、皆さん分からないと思えます。統合ありきなのかないのか、統合に向かってこの会議を進めていくのか、そうすると学校の建て替えなど課題はあるかと思えますが、最終的にはどこを目指したいのか、ある程度の方向性は、各委員さんが気になっているのではないかとと思っております。

**委員：**方向性が見えていないのに、膨大な量の資料を各委員が、どういう風に分析したら良いのか、分からない状況です。

**委員長：**このあり方検討委員会は、見ていただくと分かる通り、比較的人数が多くなっています。いろんな立場の方に出席いただいているということであれば、極端な話、資料全部にコメントをいただく必要はないと思えます。特に着目したところがあれば、1つだけでも言っていたいただければ、この人数ですので十分議論になるか

と思います。事務局もこのあり方検討委員会の着地点を皆さんの意見や反応を見ながら探っているのではないかと思います。今日含めて第3回となりますが、次回以降で方向性を決めていかななくてはいけないと思います。今日までが資料の検討ということで思っただけであればと思いますので、皆さんご理解ください。ただ、アンケート資料などこれだけ出来上がっているのに、仮に統廃合をするのであればこれぐらいのデータはないと、説得力も出てきませんし、統廃合はしないなりに、アンケートでこうだったからという理由になりますので、必要な資料ではあると思います。次回以降に方向性を議論できればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

**委員：**文章の表現の仕方も考える必要があると思います。例にとると必要があるではなく、必要があると思われるなどにしないと、検討委員会そのものの位置づけがなくなってしまうと思いますので、事務局の皆さんよろしくお願いいたします。

**委員：**課題がたくさんあるのであれば、課題を絞っていただいた資料にしていけると、もっと活発的にご意見が出るのではないかと考えておりますので、参考にしてください。

**事務局：**貴重な意見ありがとうございます。

**委員長：**私から1つよろしいですか。参考資料1の72ページ、学校でよくないと感じる事とありますが、その他の割合が高くなっており、ここまで大きいと無視できないと思いますが、どんな意見があったのでしょうか。

**事務局：**その他の意見に関してですが、大部分が特にありませんという意見の割合が多かったです。

**委員長：**その他の意見と特にありませんでは違う気がします。他に良くないと思うことがあるのであれば、統廃合以前の問題であるので、気になった点であります。それでは、時間も経過しましたので、先ほど委員の皆様からご意見いただいた中で、多くの委員の皆様が共通に思っていることでもありますので、事務局の方でアンケート結果に付随している課題の解釈というか、記述の仕方など、もう1回検討していただくことが1つと、次回以降は、当委員会の着地点を確認していくような議論をしていくことが、委員の皆様の総意ではないかなと思います。これ以上資料の出しようがないくらい揃いましたので、議論をしていく準備ができ、この後どういう議論にしていくかということになりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局の方で議事（3）その他について説明をお願いいたします。

**事務局：**議事（3）について、事務局より説明

**委員長：**ありがとうございます。ただいま、事務局より説明がありました（3）についてご質問・ご意見等がありますでしょうか。

**委員：**意見等なし。

**委員長**：それでは、次に第4回の検討委員会日程について説明をお願いいたします。

**事務局**：第4回の委員会につきまして、令和3年12月14日（火）午後3時からということで、案を決めさせていただきました。ご協議をお願いいたします。

**委員**：13：30分から時間変更はできますか。

**委員長**：他の委員さんより、令和3年12月17日（火）午後1時30分からということでしたが、こちらの日程でいかがでしょうか。

**委員**：意見等なし

**委員長**：それでは、次回はこの日程をお願いいたします。

議題については、以上でございますが、ご質問やご意見等がありますでしょうか。

**委員**：意見等なし

**委員長**：事務局へお返しいたします。

**事務局**：皆様、慎重なるご協議、大変ありがとうございました。以上をもちまして、令和3年度第3回境町学校のあり方検討委員会を閉会いたします。